



「市民が儲ける観光」を支援

観光公社設立準備室スタート

観光は地域における消費の増加や新たな雇用の創出など、幅広い経済効果をもたらすことから、その重要性が国内外で注目されています。そうした中で、市は「感動！観光振興プロジェクト」を平成19年3月に策定し、観光客の誘致と観光消費額の増加を目指す「儲ける観光」の仕組みづくりに取り組んでいます。また、本年8月からは、そのプロジェクトの一つとして、観光振興の専門組織「観光公社設立準備室」を設置しました。その狙いと今後の取り組みについて紹介します。

観光公社 設立準備室の経緯

低い観光消費額

市商工観光課によると、本市の総観光客数は平成19年度に年間260万8000人、その観光消費額は59億1900万円と推計されています。問題は1人当たりの観光消費額。県平均の5572円に対し、本市は2270円と大きく下回っています。商工観光課の岡野茂課長は「豊かな自然の中に多様な観光資源があるが、お金を落とし

てもらわなければならない。泊まる・食べる・買う・見るなどのサービス化を図り、多くの人に楽しんでもらえる仕組みが必要」と分析しています。そのため、観光消費額の増加が、観光振興や地域活性化の大きな課題となっています。

専門組織を求め声

本市には、旧市町ごとに計7つの観光協会があり、事務局の商工会を中心に、各地域のイベントの開催や観光案内など、観光振興の中心的な役割を果たしています。しかし、観光協会ごと

に開催されるイベントは、県内外へのPR力が弱く、情報発信に課題がありました。また、それぞれの取り組みをさらに発展させるためには、市全体としての一体的な取り組みが必要だという声もあり、各地域の観光資源を結び周遊ルートの構築や土・日を含む観光情報の提供など、市全体をカバーする観光の専門的な組織体制が望まれていました。

専門組織で幅広い活動が可能

市は各観光協会と協議を重ねる中で、観光事業のさまざまな課題を解決するためには、観光専門組織が不可欠と判断。地域経済の活性化と本市の一体的な発展を目指し、観光事業による地域振興を目的とした「観光公社（仮称）」の設立に取り組むことにしました。

専門的な人材と組織を確保することで、本市へ集客を図るための多様な観光事業の実施が可能となるほか、宿泊・交通を含む観光情報の提供や、ニーズに迅速に対応できると期待しています。

本年度は、国の「ふるさと雇用再生特別交付金事業」を活用し、7つの観光協会を束ねる庄原市観光協会連合会へ観光公社設立業務と観光事業の構築を業務委託。同連合会は、旅行業などの経験者5人を採用し、「観光公社設立準備室」を設置しました。公社の設立には、①競合する業務が

発生した場合は民業圧迫につながる可能性がある、②地域振興を目的とした公社は収益性が低く、財政支援が必要、などの課題もあります。今後、関係団体と連携を図りながら、効果的な観光事業の実施や仕組みづくりを行いながら、より良い経営形態を検討し、平成23年度の公社化を目指します。 ※ふるさと雇用再生特別交付金事業は10/10補助、3年事業。本年度の予算額は2420万円。

観光のプロ集団が始動

8月にスタートした観光公社設立準備室には、観光をはじめさまざまな分野のエキスパートが集まりました。統括の松田幸三さんは、君田温泉「森の泉」の元支配人としても有名で、他のスタッフも旅行

業などの豊富な経験を誇ります。業務を開始して1カ月余りですが、土・日の観光案内をはじめ、本市への集客を図る観光ツアーの企画やモニターツアーの実施、ガイドの育成事業や観光情報の収集や提供など、精力的に動いています。



スタッフ

観光公社設立準備室の業務

地域振興型の観光産業を目指す

- 土、日、祝日も休まず営業し、観光の問い合わせに対応
- イベント、祭り、食事、交通など幅広い観光情報を持つ庄原市の総合案内窓口として機能
- 観光客、ツアー誘致のためのPR活動
- 庄原市の楽しみ方の提案、また「庄原」セミナーの開催
- 集めた情報を分析し、各関係者へその情報を提供する
- ホームページ、ブログを活用し、情報を広く発信、提供する

- 地域密着型ツアーの造成
- 関西以西で1番の広さを持つ庄原市の利点を活かし、それぞれの地域文化を大切にしながら総合的なツアーを造成する
- 各関係組織との連携を強化し、観光客を呼び込み楽しんでもらえる仕組みを作る
- 地域資源をサービス・商品化し、庄原市への観光客数増加と観光消費額の増加を目指す
- 2010年「庄原さとやま体験博（仮称）」の企画と実施
- 専門ガイドの育成
- 積極的にツアー販売を行い、収益事業を展開することができる旅行業の取得を目指す
- 地元特産品の販売促進
- その他収益事業（接遇研修、商品開発など）

【事務所】

庄原市観光協会連合会「観光公社設立準備室」
庄原市中本町2丁目5-6 交流サロンラッキー2階(旧ウツミ屋証券ビル)
☎0824-72-3385



9月4日に行われた業務説明会

7つの魅力を市全体の魅力に

庄原市観光協会連合会
会長 塩本 誠一さん



これまで7つの観光協会はそれぞれの地域でがんばってきましたが、7つが連携した活動が鈍く、市全域を資源とした周遊ルートの作成や、各地域の観光資源をつなぐコーディネートがいまありません。今回、専門能力のある5人を採用したことで、これらの課題解決ができ、観光客にお金を落とすてもらえる仕組み、いわゆる「観光の産業化」ができる大きな期待をしています。今後は、観光資源を商品化するため、ガイドをしませんか、食事を提供しませんか、特産品を開発しませんか、いろいろな形で各地域にアプローチがあると思います。これをビジネスチャンスと捉え、一緒に儲ける観光をつくっていきましょう。

市民が儲ける仕組みを構築

観光公社設立準備室
統括 松田 幸三さん



これまでの観光は名所めぐりなど物見遊山の観光ツアーが定番でしたが、これからは体験を中心とした地域密着型の観光が主流となり、農林業資源をいかに収益に結びつけるかがポイントになります。観光公社設立準備室は、地域資源を魅力的に提供する観光コーディネートとして、地元の宿泊・飲食・買い物・交通の各観光関連業者などと連携を強化し、市民の皆さんが儲ける観光の仕組みづくりを構築していきたいと思っています。そのためには、各地域の観光資源やサービスを提供していただける人材など、どんな情報をお寄せいただきたいと思います。